

2009年5月7日(木曜日)

学籍番号：70703179

総合政策学部3年 河村佳宏

小宮信夫 [2005] 『犯罪は「この場所」で起こる』 光文社新書

はじめに

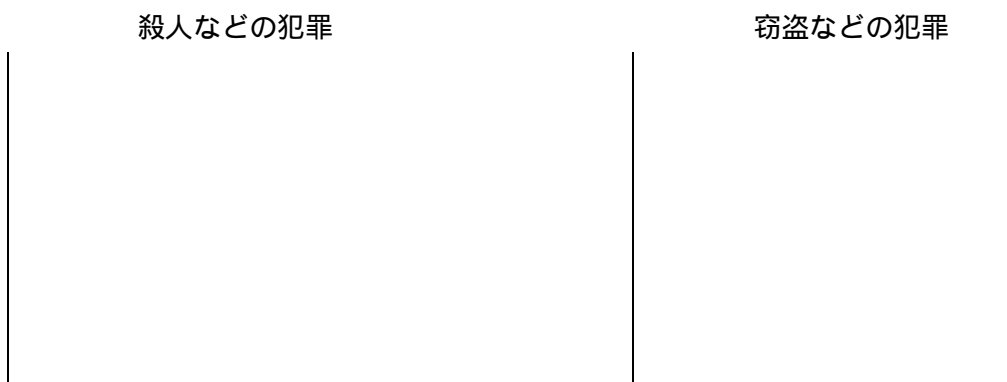
- ・ 犯罪被害を無くすために
- ・ 従来の「犯罪者」にだけスポットライトをあてた予防には限界
- ・ 犯罪の起きる「場所」に注目、そのような場所を物理的に無くすことで犯罪を敢行させないようにする
場所的犯罪予防、状況的犯罪予防に適っている

第一章 機会なければ犯罪なし 原因論から機会論へ

- ・ 1991年～2001年の犯罪増加率、日本が欧米を上回る
- ・ ライフスタイルの変化とコミュニティ崩壊が、日本の治安悪化の原因か
- ・ 欧米における犯罪対策のパラダイムシフト
- ・ 犯罪原因論から犯罪機会論へ、処遇から予防へ、犯罪者から被害者へ
- ・ 犯罪原因論の限界・・・犯罪原因は理解困難かつ除去困難、無くならない再犯
- ・ 「原因」をキーワードに事後対策 = 伝統的な犯罪学
- ・ 「機会」をキーワードに事前対策 = 新しい犯罪学、欧米では主流
- ・ 犯罪量の決定メカニズム



- ・ 機会の需要曲線 = 右上がり
- ・ 機会の供給曲線 = 右下がり
- ・ 犯罪者の「合理的選択」
- ・ 従来の犯罪学・・・需要曲線の左シフトを志向
- ・ 新しい犯罪学・・・供給曲線の左シフトを志向
- ・ 需要の弾力性・・・小：殺人など、ノ大：窃盗など



- ・ アメリカの諺：Opportunity makes the thief
- ・ 新しい犯罪学 = 「環境犯罪学」「供給サイド犯罪学」
- ・ 神戸児童連続殺傷事件のケース

第二章 犯罪に強い空間デザイン ハード面の対策

- ・ 犯罪に強い三要素

犯罪の機会（状況）		犯罪に強い要素	ハードな要素	ソフトな要素
標的	What, Whom	抵抗性	恒常性	管理意識
場所	Where, When, How	領域性	区画性	縄張意識
		監視性	無死角性	当事者意識

- ・ 犯罪に強い状況を作り出すには、ハードとソフトの両方が必要
- ・ 領域性と監視性の向上を目指した、ハード面重視のアプローチ
- ・ ・ ・ ・ 「防犯環境設計」(CPTED: Crime Prevention Through Environmental Design)
- ・ 「安全・安心まちづくり」
- ・ 監視カメラ (CCTV) の利用

第三章 犯罪に強いコミュニティデザイン ソフト面の対策

- ・ 領域性と監視性の向上を目指した、ソフト面重視のアプローチ
- ・ . . . 「割れ窓理論」 . . . コミュニティ・ポリシングを志向、体質改善療法
- ・ . . . 「Zero Tolerance Policing : 不寛容型警察活動」 . . . 検挙重視、対症療法
- ・ ニューヨーク市警の「コムスタット (Computerized Statistics)」
- ・ . . . 犯罪情勢の統計分析、本部・分署の情報共有
- ・ コミュニティ・エンパワーメント
- ・ 地域安全マップづくりプログラム
- ・ コミュニティとパートナーシップ

第四章 犯罪から遠ざかるライフデザイン もう一つの機会論

- ・ 二段階戦略 . . . 犯罪機会の減少をはかることで状況の引き起こす犯罪を減らし、その後、社会エネルギーを集中させ犯罪機会減少によって防げない犯罪を無くす
- ・ 危険因子と保護因子
- ・ 犯罪を選択しない、ライフコースを目指す
- ・ 発達の犯罪防止
- ・ 修復的司法 (Restorative Justice)

おわりに

- ・ 犯罪社会学における理論と実践の交流
- ・ 傍観者的な原因論に終始するのではなく、具体的な実践を